



JTRUST

2017年3月期 第1四半期

決算説明資料

2016年8月

Jトラスト株式会社



1. 決算のポイント

2. セグメント別業績

3. 通期計画の進捗

4. その他

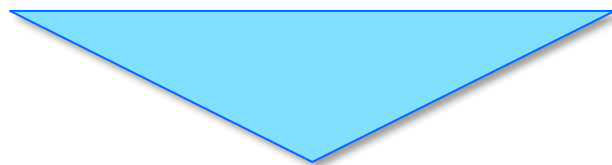
APPENDIX (IFRS参考値)

免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。
様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 東南アジア金融事業のJ-GAAPは3ヶ月期ずれで連結決算に取り込んでおります。
3ヶ月期ずれ（第1四半期：1月～3月 第2四半期：4月～6月 第3四半期：7月～9月 第4四半期：10月～12月）
- 本資料に記載したIFRSの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。
- 韓国金融事業のページに記載の参考為替レートは、2016年6月末付けの為替レートを、東南アジア金融事業のページに記載の参考為替レートは、2016年3月末付けの為替レートを記載しております。

決算のポイント

- 営業収益は 205億円と過去最高 (四半期ベース)
- 営業利益は前年同期比 30億円増益



右肩上がりの業績見通し
通期計画達成に向け進捗中

- I. 国内金融事業 **堅調** 通期計画上乘せを目指す
- II. 韓国金融事業 **事業は順調** 連結取込み時の会計上の問題も低減し、安定した黒字が定着
- III. 東南アジア金融事業 **経常的な月次黒字化**に向けて取り組み強化中
- IV. 投資事業 連結業績に大きく貢献

第1四半期決算概要

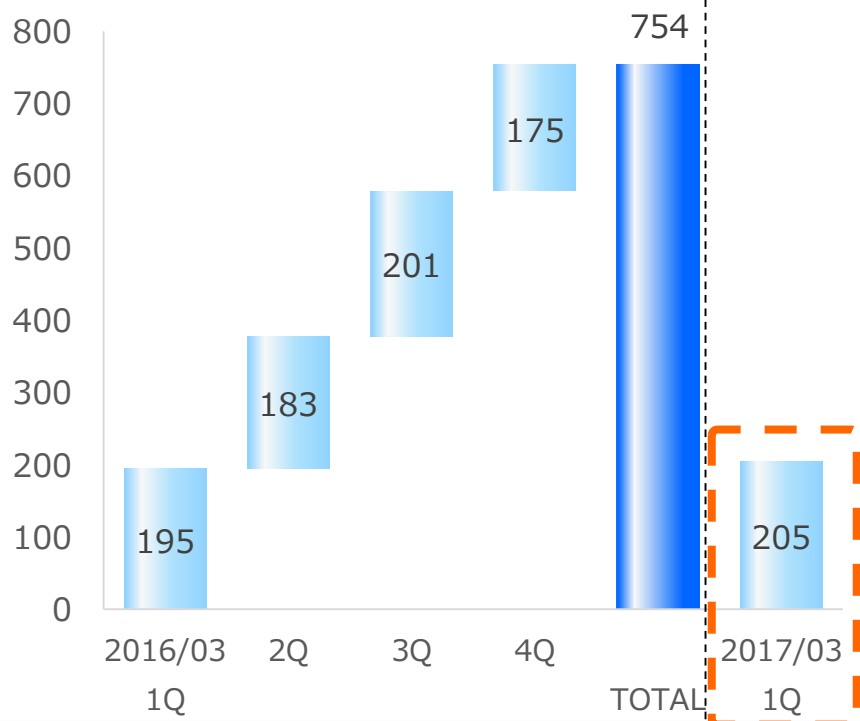
- 四半期ベースの営業収益・営業利益は、ともに堅調
- 営業収益205億円は過去最高収益を記録

J-GAAP

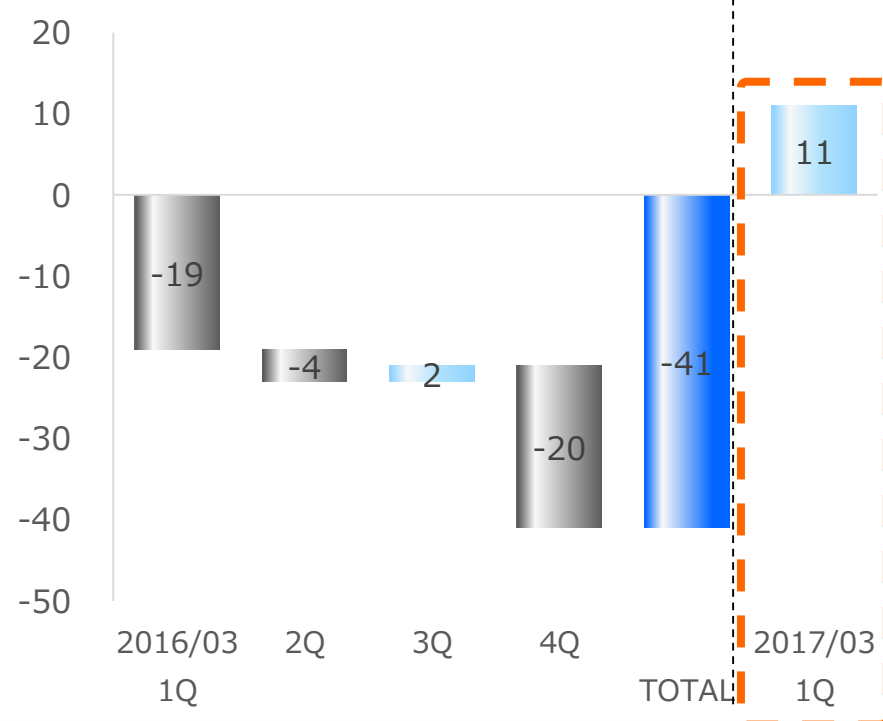
連結サマリー（四半期毎 営業収益・営業利益の推移）

単位：億円

営業収益



営業利益



※グラフは単位未満四捨五入

- 営業利益は前年同期比 30億円増益の11億円
- 調整後EBITDAは前年同期比29億円増の22億円

J-GAAP

連結サマリー（前年同期比）

	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
営業収益	194億円	205億円	+ 11億円
営業利益	-19億円	11億円	+ 30億円
経常利益	-15億円	-3億円	+ 12億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-27億円	-7億円	+ 20億円
調整後EBITDA	-7億円	22億円	+ 29億円

調整後EBITDA：営業利益+のれん償却額+減価償却額+事業構造改善費用（リストラ費）

- 国内金融事業は堅調
- 韓国金融事業は為替換算レートの影響を受け減収
(2016/03 1Q=0.1107ウォン 2017/03 1Q=0.0930ウォン)
- 東南アジア金融事業は増収基調

J-GAAP

営業収益（前年同期比）

	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
国内金融事業	26億円	25億円	-1億円
韓国金融事業	74億円	70億円	-4億円
東南アジア金融事業	32億円	35億円	+3億円
投資事業	3億円	14億円	+11億円
非金融事業	51億円	50億円	-1億円
その他	6億円	8億円	+2億円
合計	194億円	205億円	+11億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンタテインメント事業

※その他：商業施設建築業、システム事業等

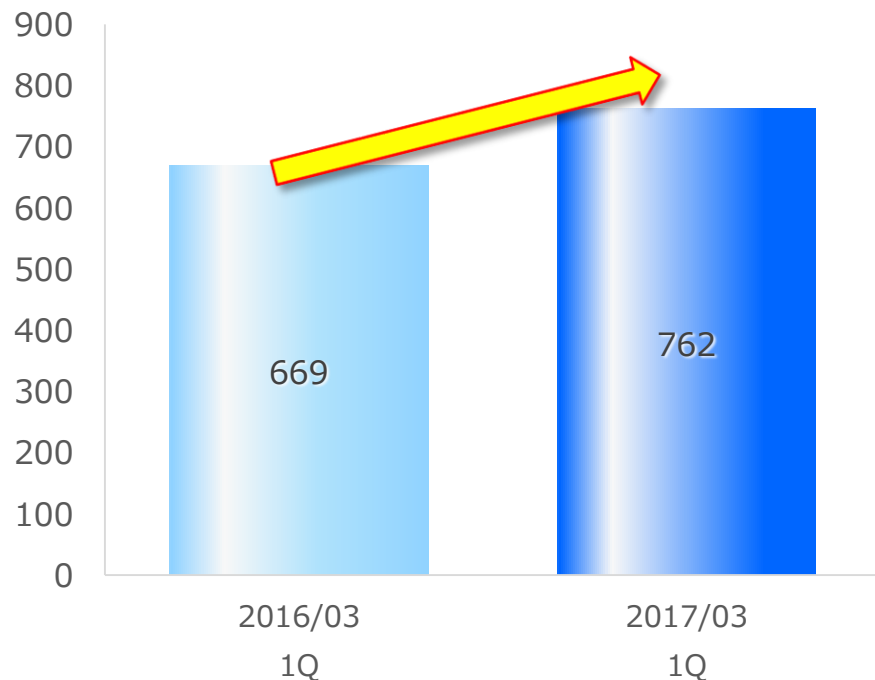
- ▶ 韓国金融事業は118億ウォン増収
- ▶ 東南アジア金融事業は706億ルピア増収

J-GAAP

営業収益（前年同期比）

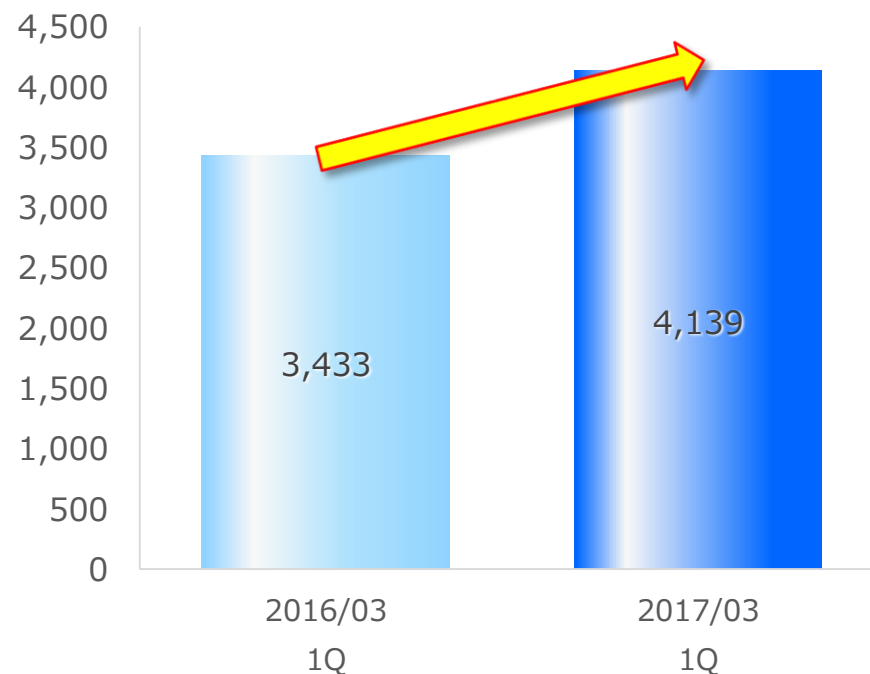
韓国金融事業

単位：億ウォン



東南アジア金融事業

単位：億ルピア



為替換算レート：円＝ウォン
 2015/06 1Q=0.1107ウォン
 2016/06 1Q=0.0930ウォン
 (各4月～6月の期中平均レート)

為替換算レート：円＝ルピア
 2015/06 1Q=0.0094ルピア
 2016/06 1Q=0.0086ルピア
 (各1月～3月の期中平均レート)

- 国内金融事業は持続的に成長中
- 韓国金融事業は黒字が定着
- 東南アジア金融事業は改善基調

J-GAAP

営業利益（前年同期比）

	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
国内金融事業	9億円	11億円	+2億円
韓国金融事業	0億円	2億円	+1億円
東南アジア金融事業	-25億円	-6億円	+19億円
投資事業	2億円	13億円	+11億円
非金融事業	1億円	-0億円	-1億円
その他	-7億円	-7億円	-0億円
合計	-19億円	11億円	+30億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンタテインメント事業

※その他：商業施設建築業、システム事業等

- ▶ 韓国金融事業は22億ウォン増益
- ▶ 東南アジア金融事業は1,893億ルピア改善

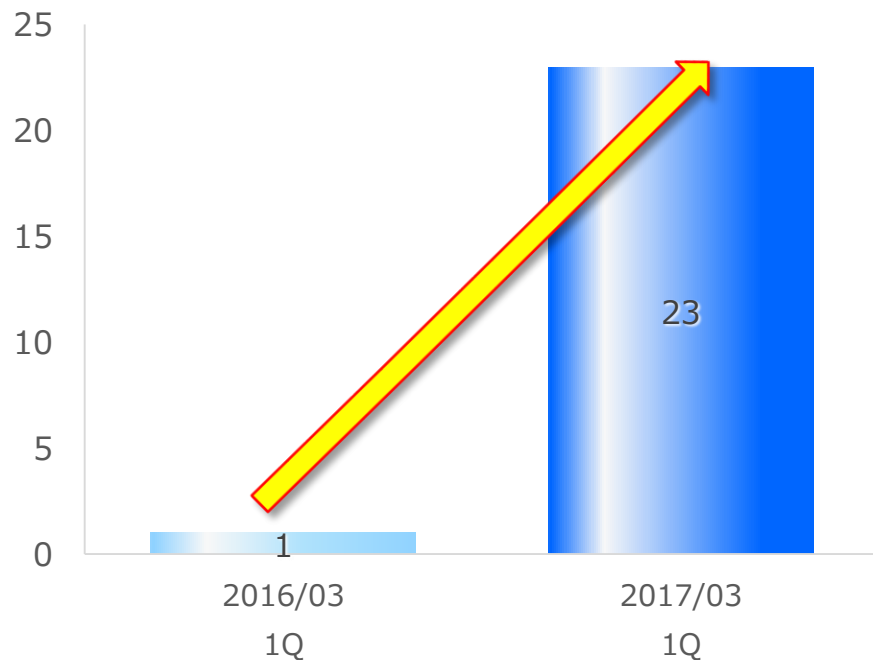
J-GAAP

営業利益（前年同期比）

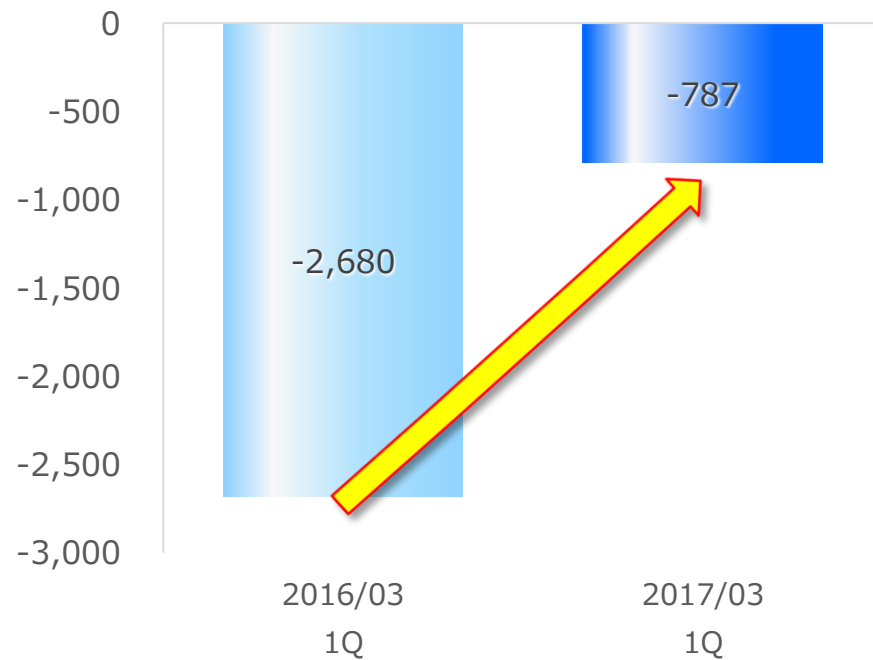
左グラフ/単位：億ウォン

右グラフ/単位：億ルピア

韓国金融事業



東南アジア金融事業



為替換算レート：円＝ウォン
 2015/06 1Q=0.1107ウォン
 2016/06 1Q=0.0930ウォン
 （各4月～6月の期中平均レート）

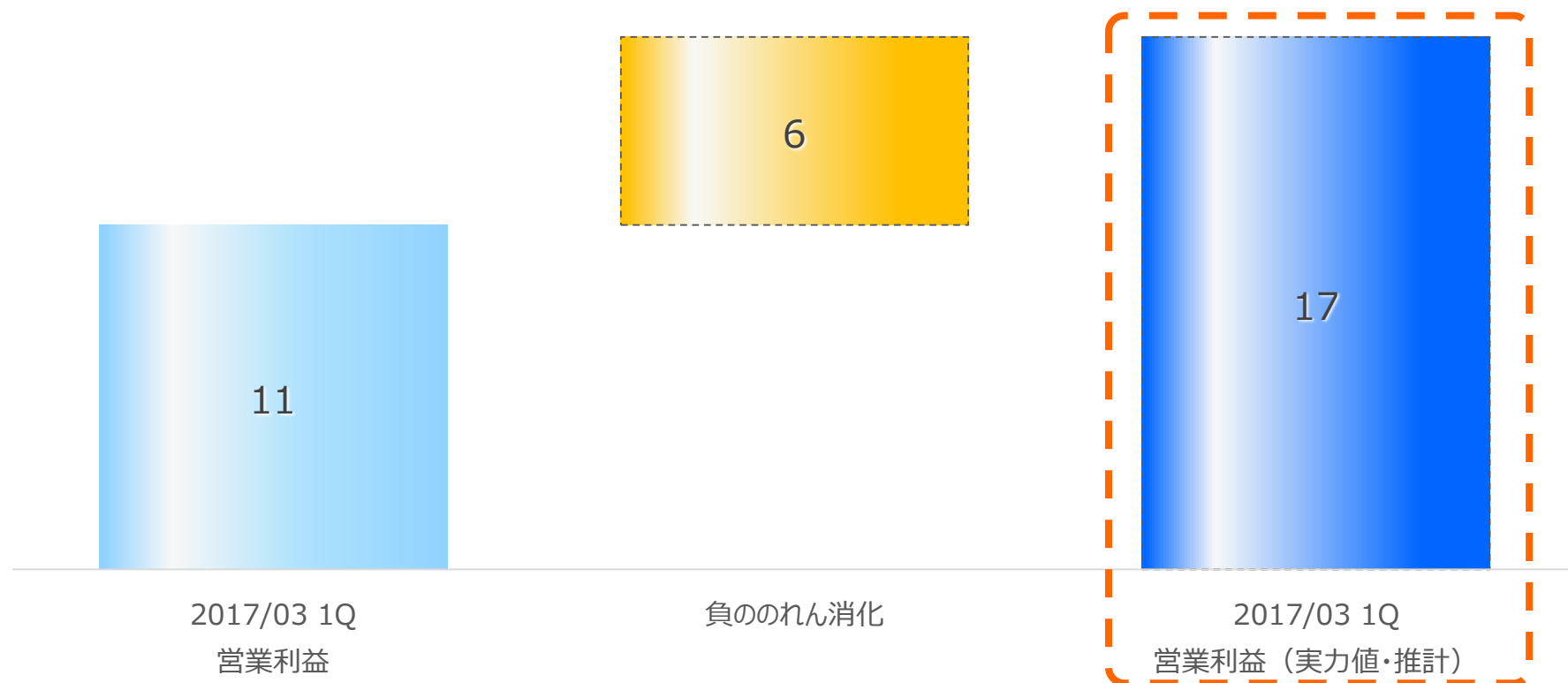
為替換算レート：円＝ルピア
 2015/06 1Q=0.0094ルピア
 2016/06 1Q=0.0086ルピア
 （各1月～3月の期中平均レート）

- 2015年3月期に計上した負ののれんの影響により、6億円が営業利益を押し下げ
- 営業利益の実力値は推計17億円

J-GAAP

営業利益の実力値

単位：億円



セグメント別業績

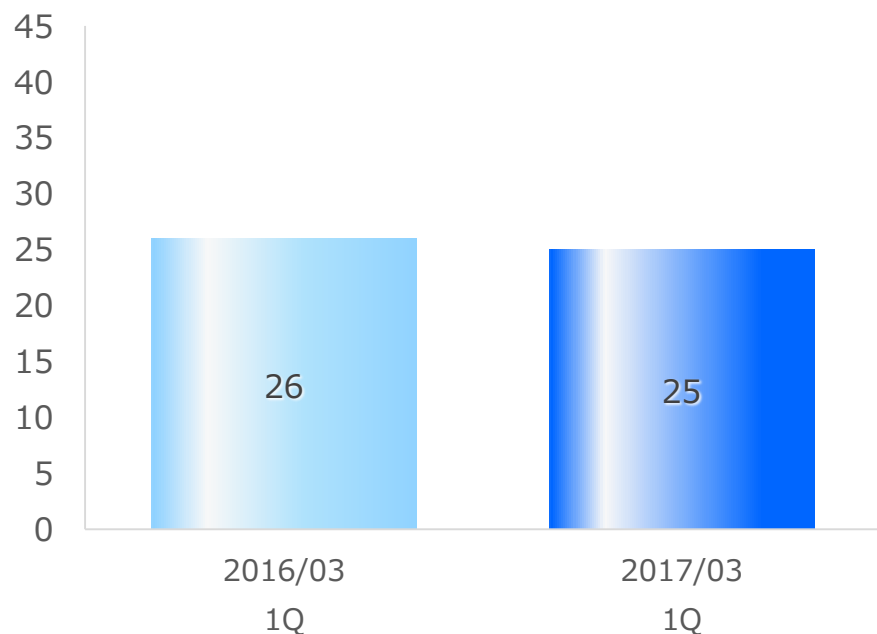
- ▶ 営業収益・営業利益とも堅調に推移 通期計画を上回る着地を目指す
- ▶ リストラ効果により固定費が減少し、持続的に成長中

J-GAAP

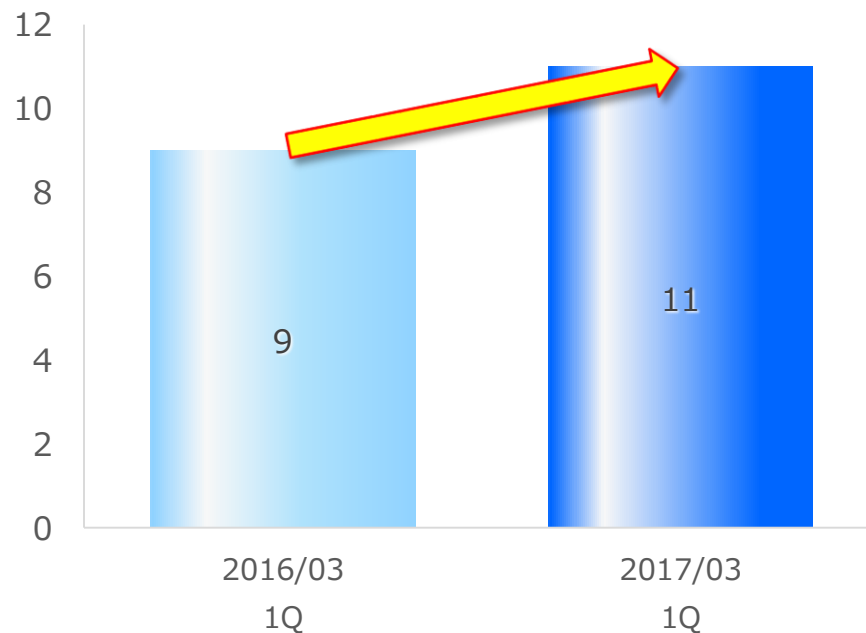
国内金融事業

単位：億円

営業収益

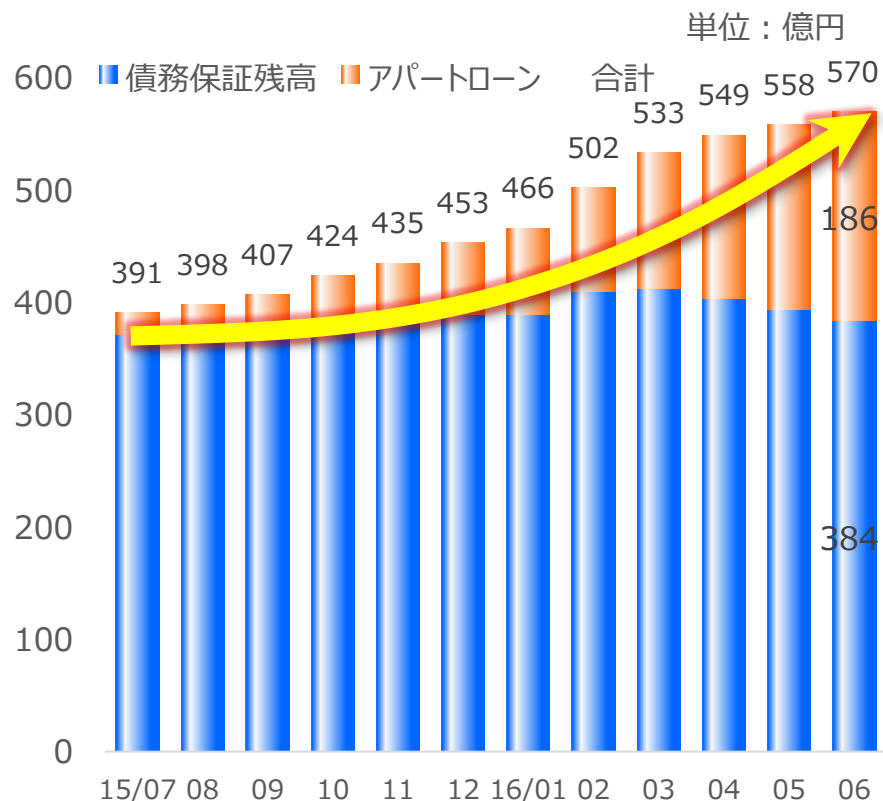


営業利益

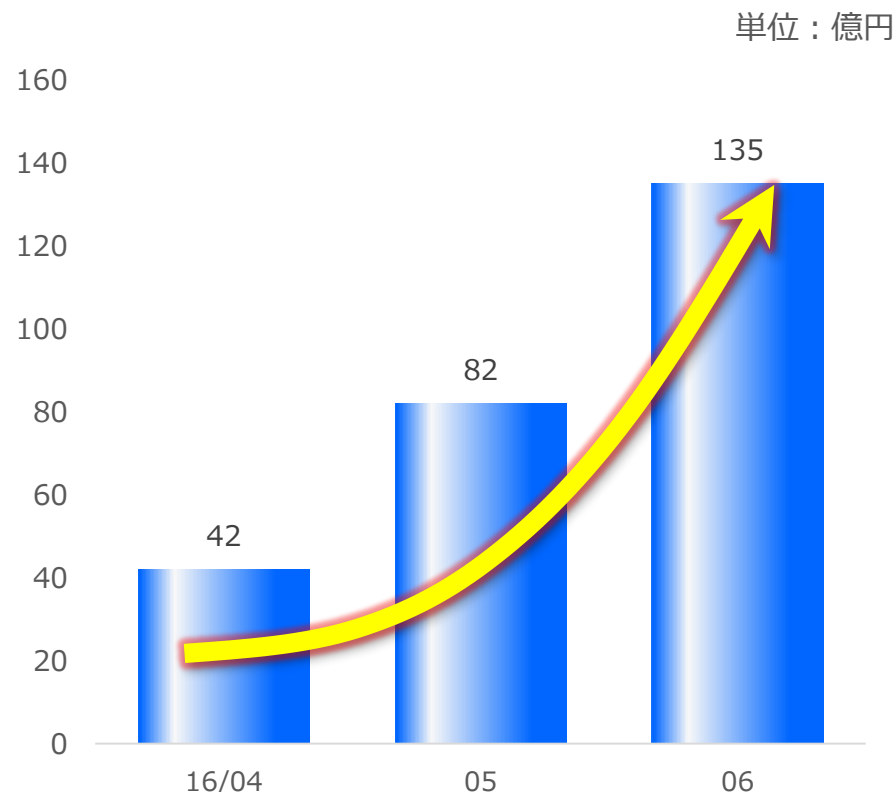


- ▶ アパートローンは順調に伸長
- ▶ 本承認も順調に積み上がり、通期計画達成に向け進捗中

日本保証における保証残高の推移



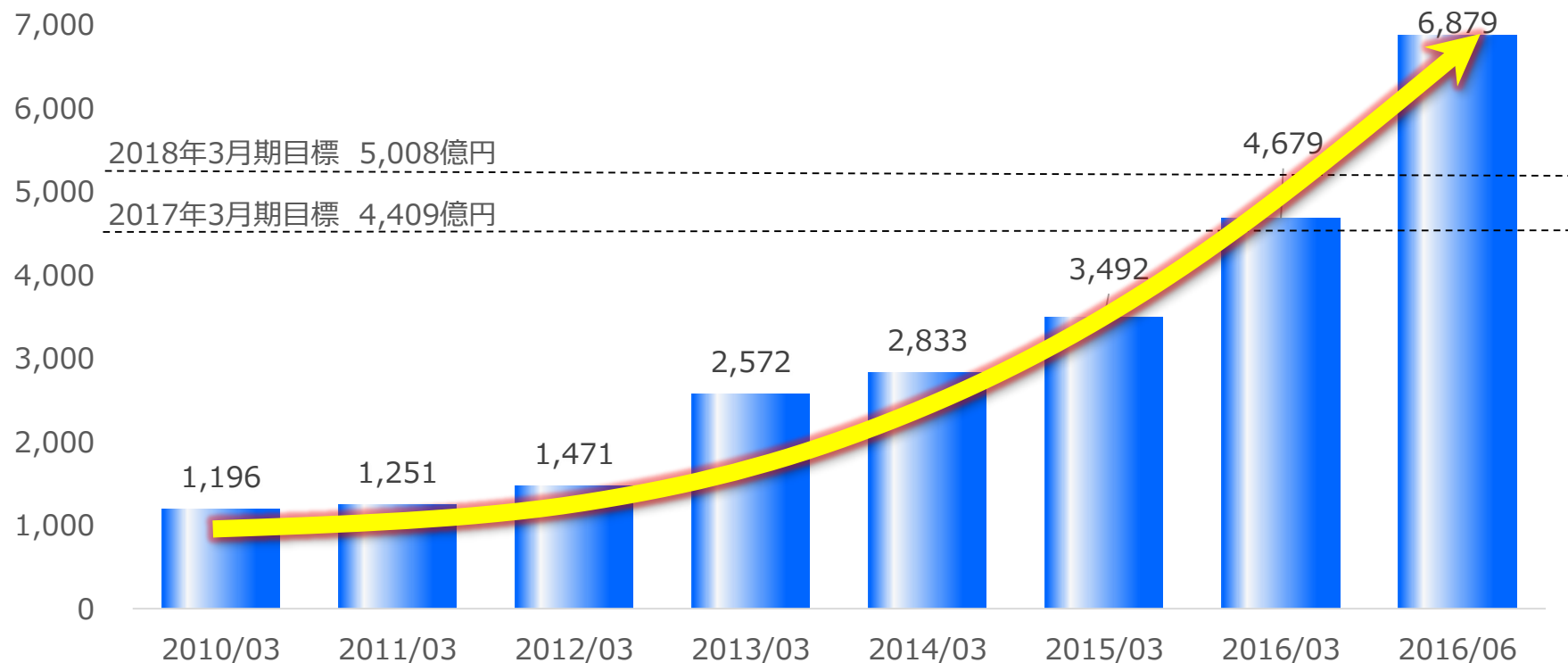
アパートローン本承認累計金額



- NPL債権の買取が引き続き奏功し 請求債権残高は大幅に増加
- 通期計画目標4,409億円に対し156%の達成率
(2018年3月期の計画5,008億円を既に達成)

請求債権残高の推移

単位：億円



韓国金融事業

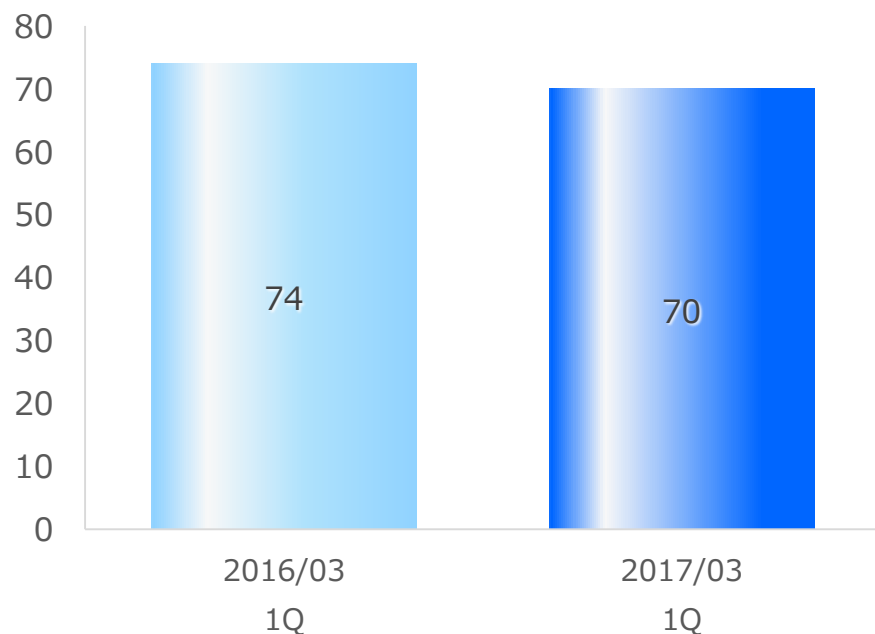
- ▶ 韓国金融事業は為替換算レートの影響を受け減収
(2016/03 1Q=0.1107ウォン 2017/03 1Q=0.0930ウォン)
- ▶ 営業利益は黒字が定着 右肩上がりの業績見通し

J-GAAP

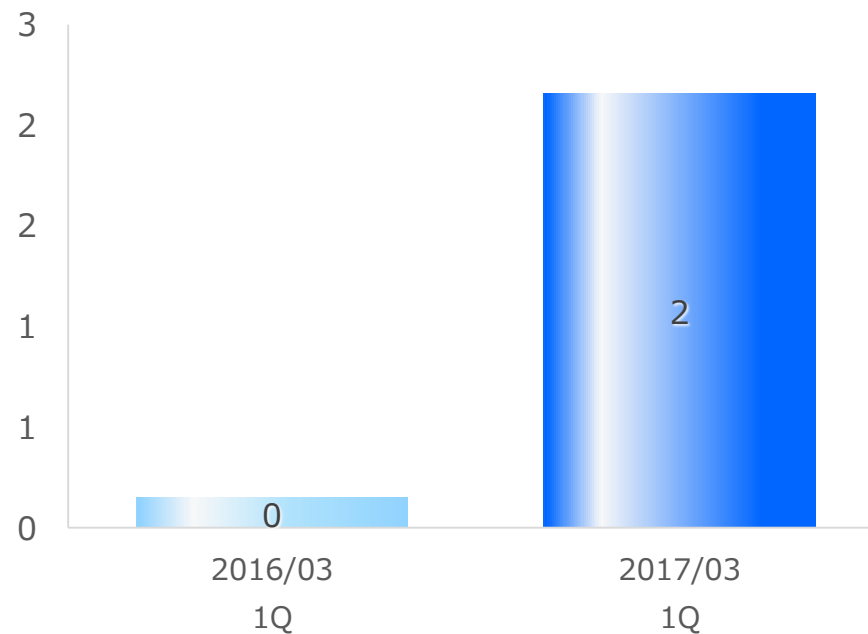
韓国金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

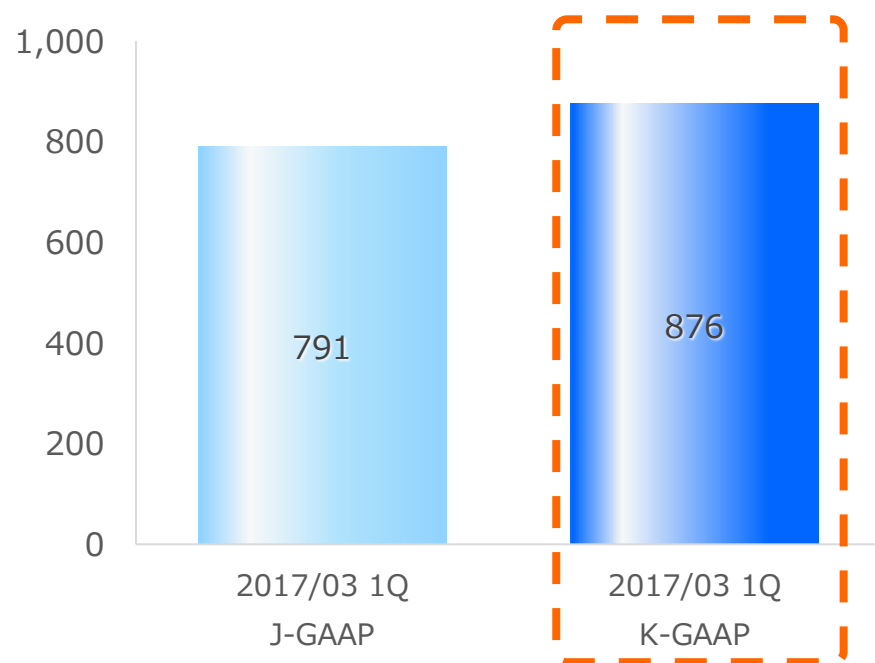


- ▶ 実力値をあらわす韓国現地会計基準のK-GAAPは
営業収益、営業利益ともに堅調

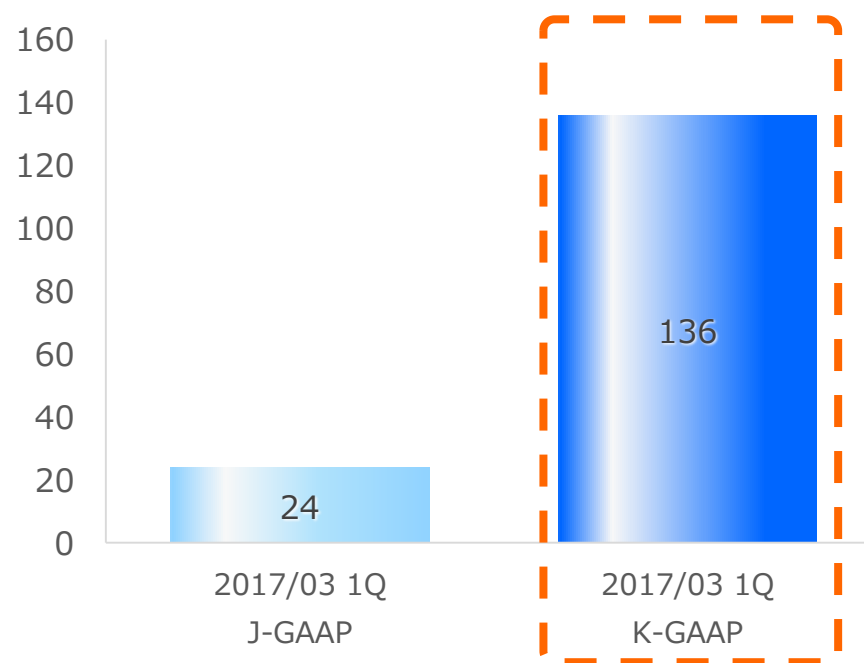
韓国金融事業

単位：億ウォン

営業収益



営業利益



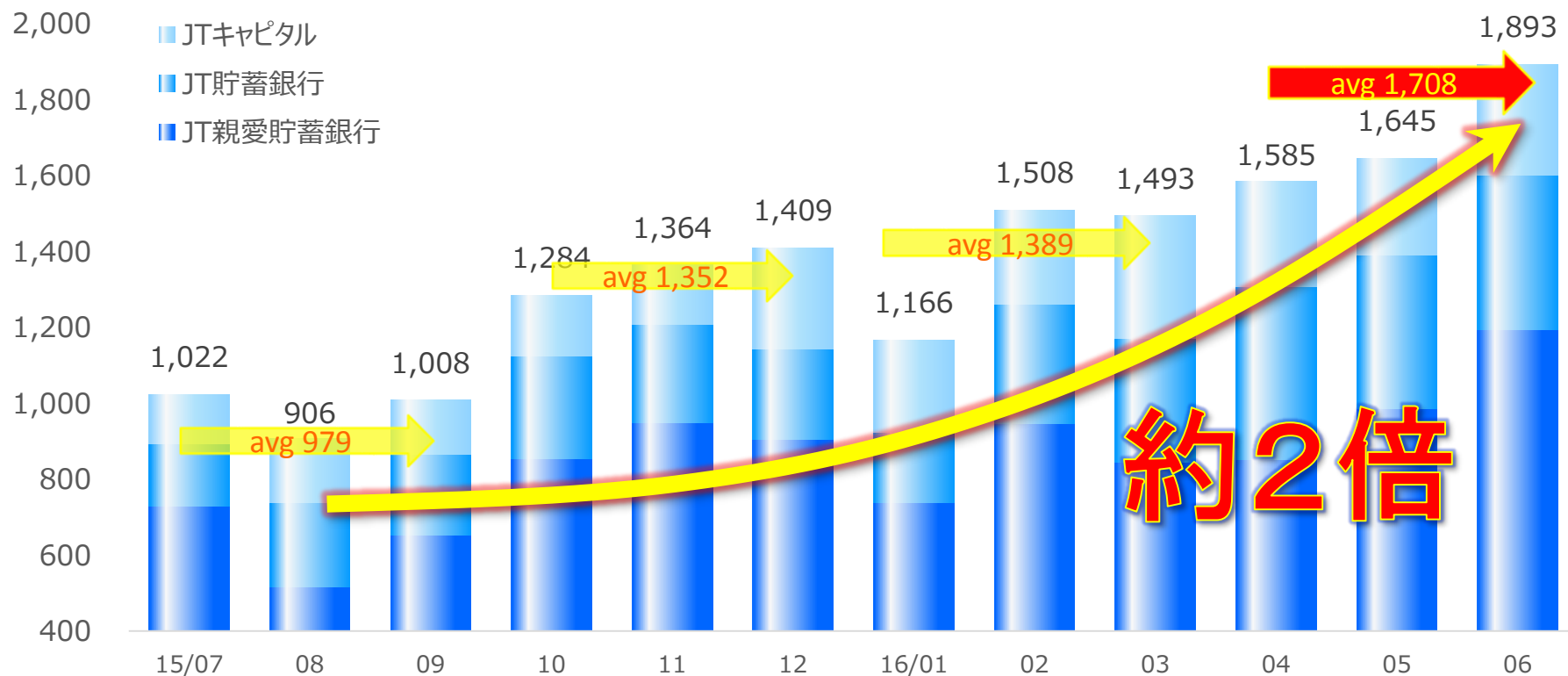
参考レート：1ウォン=0.0896円

※韓国4社 = J T 親愛貯蓄銀行 J T 貯蓄銀行
J T キャピタル T A 資産管理

- 月間新規貸付金額は過去最高額を更新中（3ヶ月平均 = 1,708億ウォン）
- 1年前のavg979億ウォンと比較すると約2倍

月間新規貸付金額

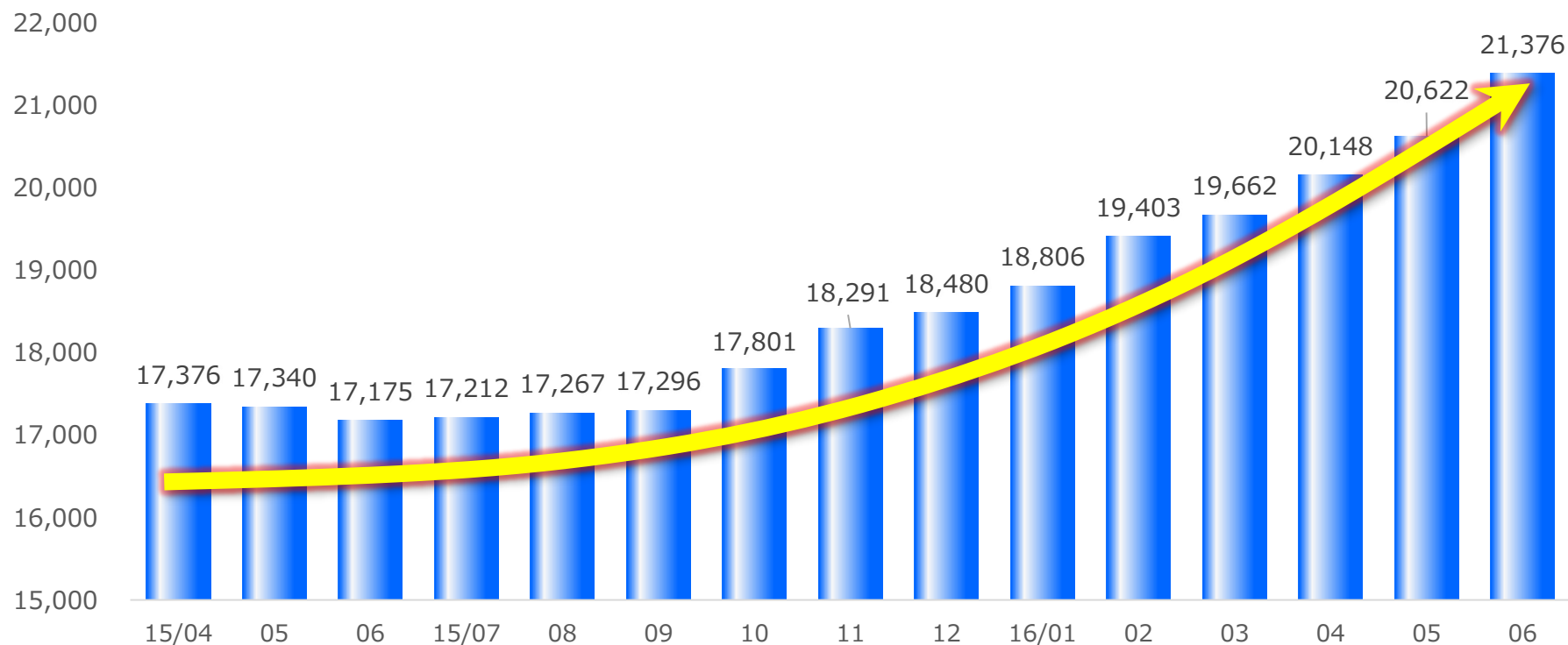
単位：億ウォン



▶ 貸付金残高は順調に伸長

貸付金残高推移

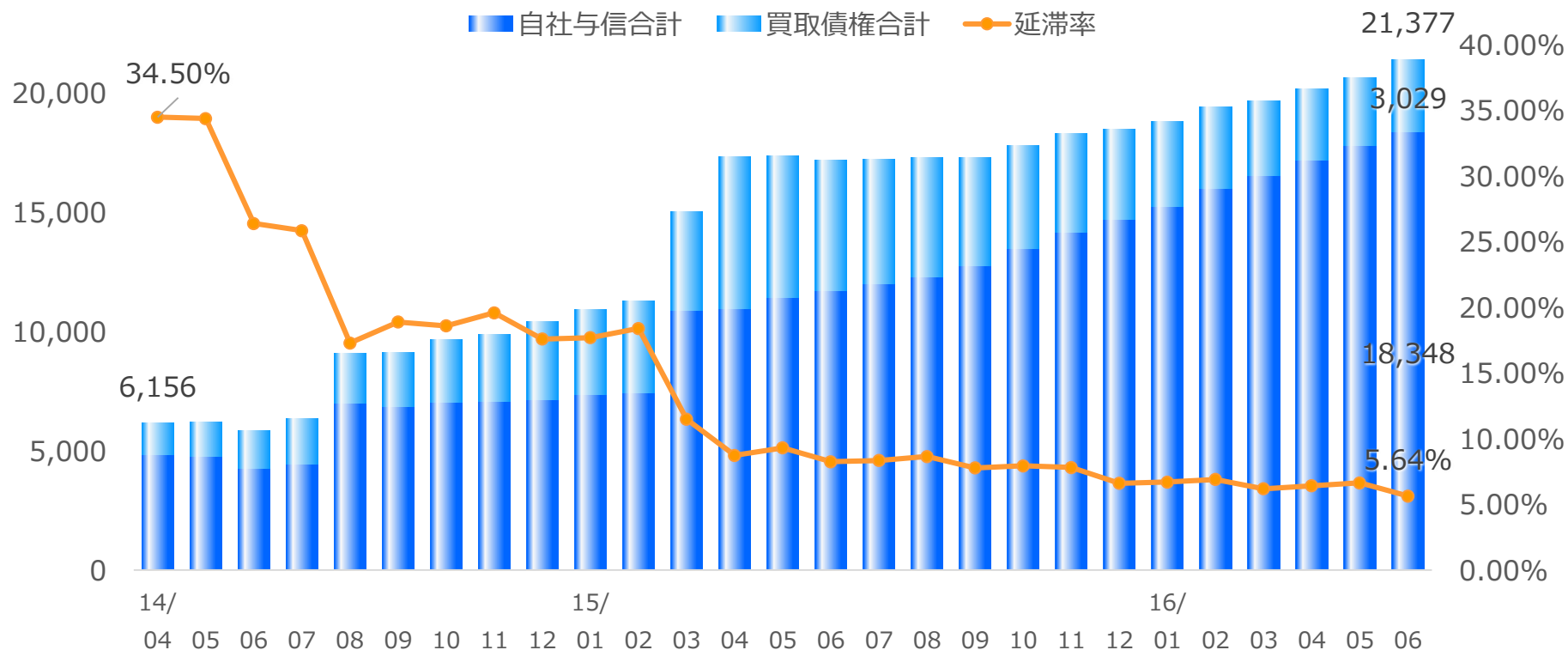
単位：億ウォン



- 自社与信の優良な債権がさらに増加
- 延滞率は過去最低値を記録
- 収益基盤はさらに強固になる

貯蓄銀行/キャピタルの残高および延滞率推移

単位：億ウォン



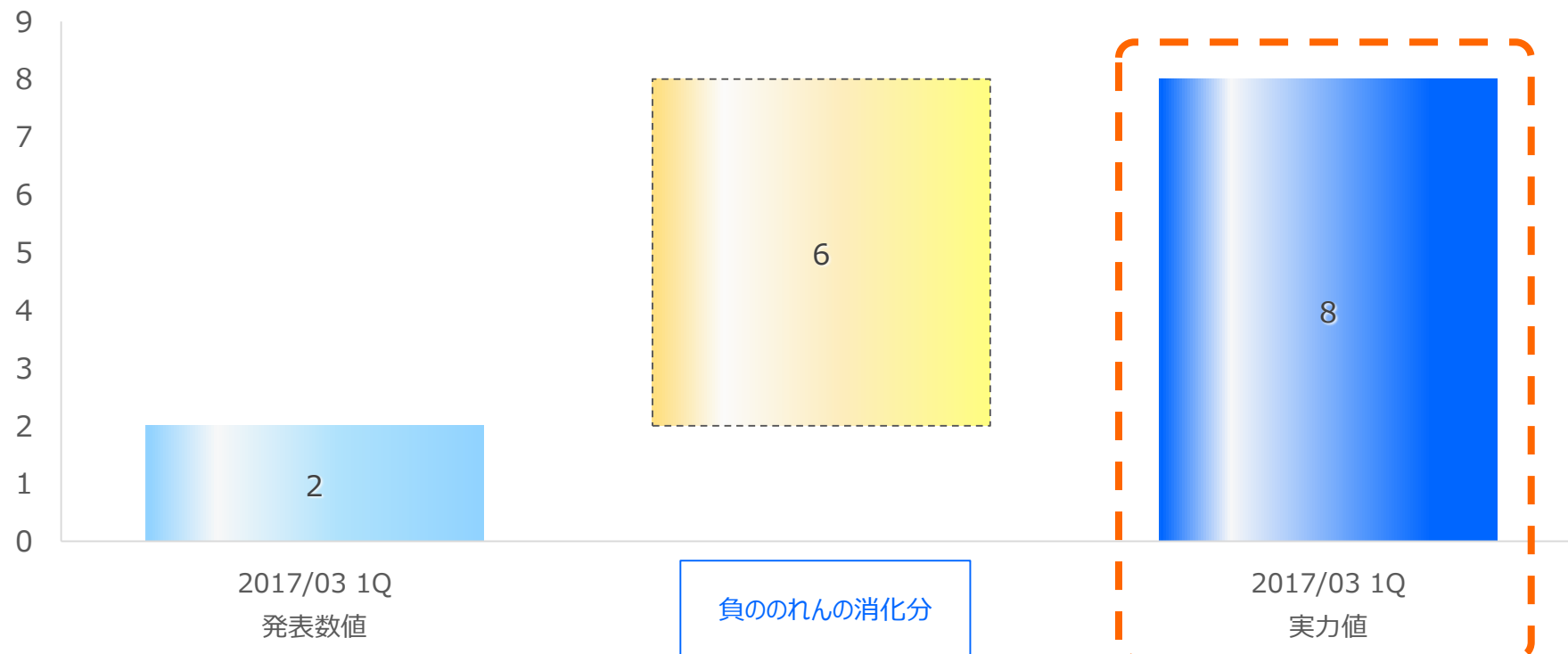
参考レート：1ウォン=0.0896円
 ※不良債権=30日以上延滞債権

➤ 負ののれんの消化分の影響を除くと、日本基準の実力値は推計8億円

J-GAAP

韓国4社合計の営業利益の実力値（推計）

単位：億円

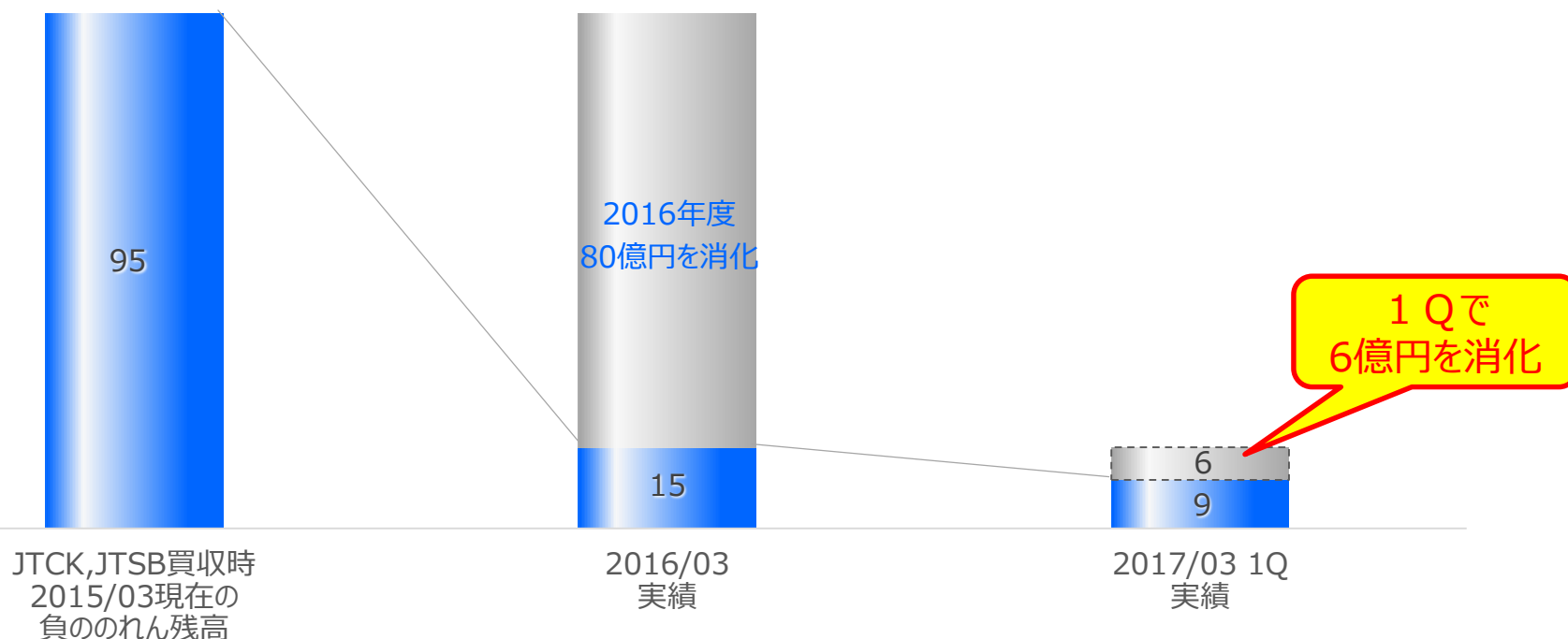


- 2015年3月期に計上した負ののれんが連結営業利益に影響
- 2016年6月時点の未消化残高は約9億円にまで圧縮（今期中におおむね消化予定）

J-GAAP

負ののれんが営業利益に与える影響（6月末現在）

単位：億円



東南アジア金融事業

➤ J-GAAPにおける東南アジア金融事業の連結取り込みは3ヶ月の期ずれ

■ 東南アジア金融事業 業績の取込み期間

2017年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q
J-GAAP	2016/1~3	2016/4~6	2016/7~9	2016/10~12
営業収益	35億円	-	-	-
営業利益	-6億円	-	-	-

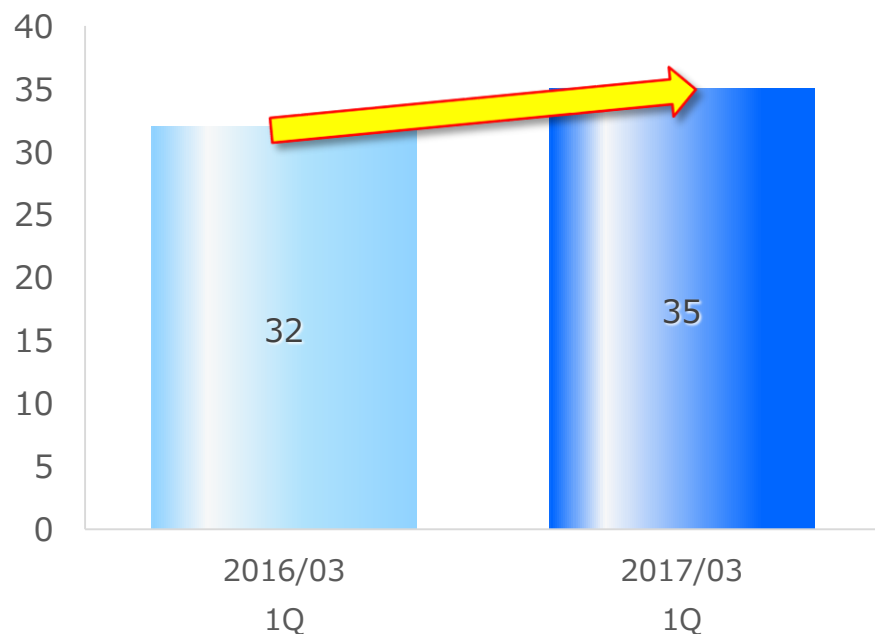
- 営業収益は増収基調 業績見通しは下期偏重型
- 営業利益は改善基調
- 経営のスリム化による筋肉体質を目指し、より一層の取り組みが重要

J-GAAP

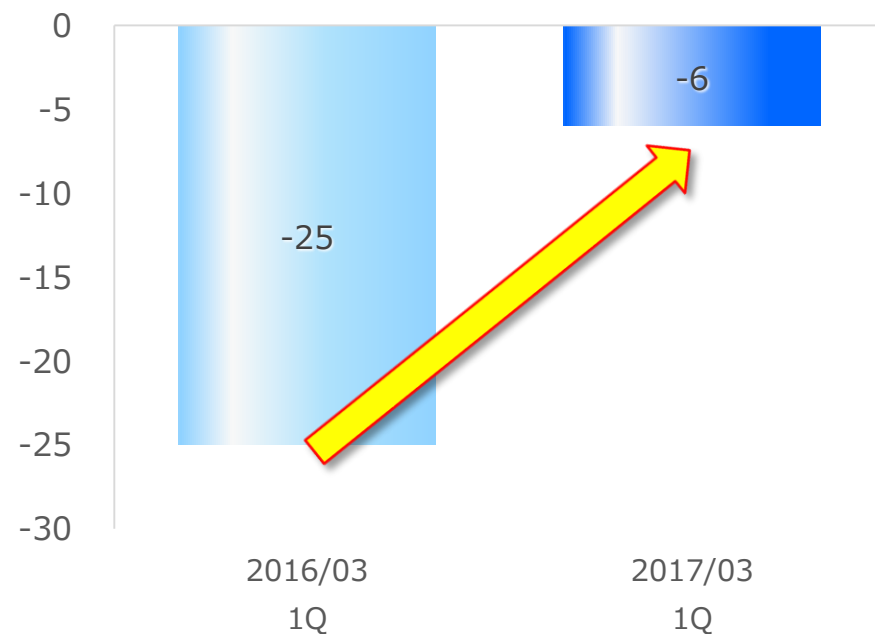
東南アジア金融事業

単位：億円

営業収益

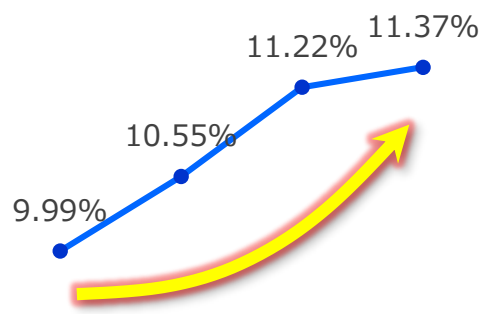


営業利益

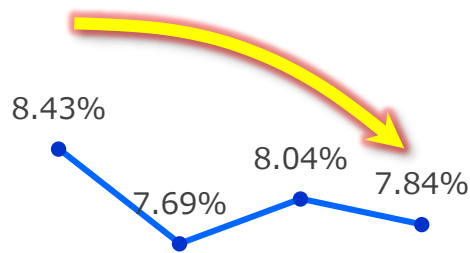


- ▶ 営業資産および平均貸出金利の上昇により金利収入増大
- ▶ 預金金利低減も寄与し、純金利収入（金利収入-利息費用）は着実に増加

平均貸出金利

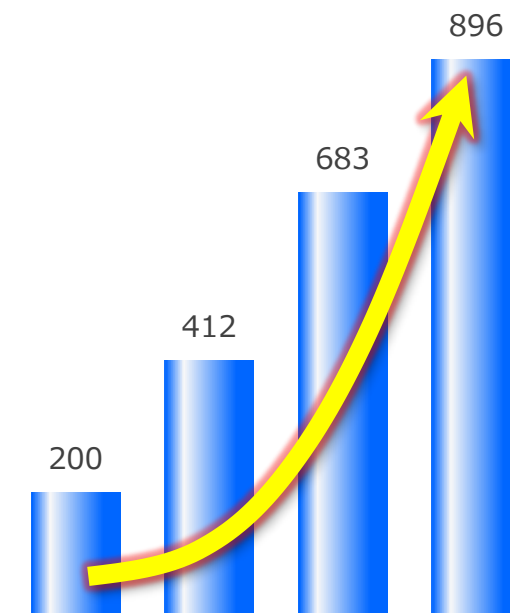


平均預金金利



純金利収入

単位：億ルピア



2015/
4~6 7~9 10~12 2016/
1~3

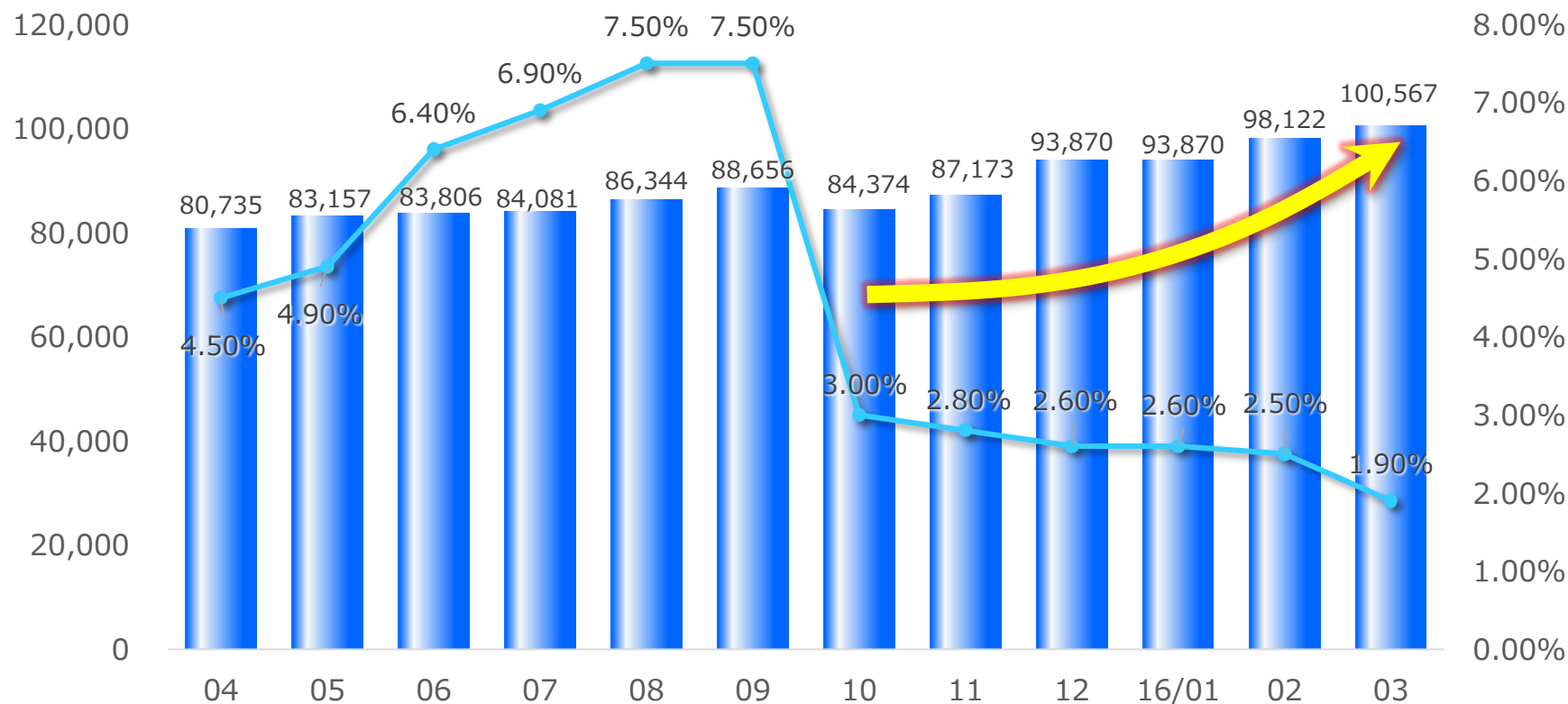
2015/
4~6 7~9 10~12 2016/
1~3

2015/
4~6 7~9 10~12 2016/
1~3

➤ 営業部隊の強化により、営業資産の積み上げが実現

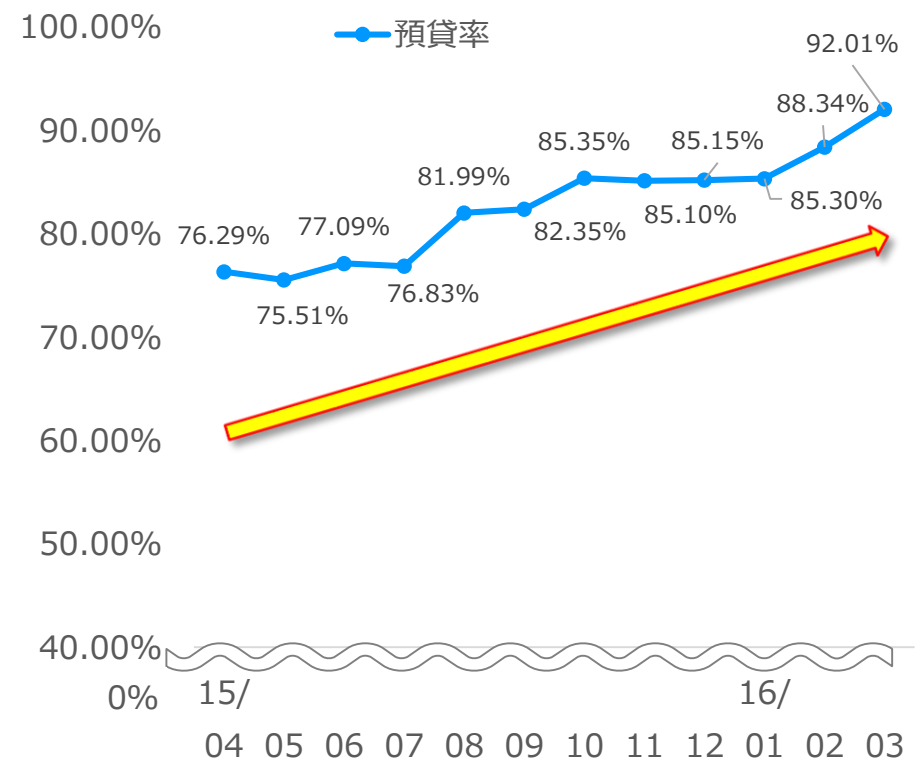
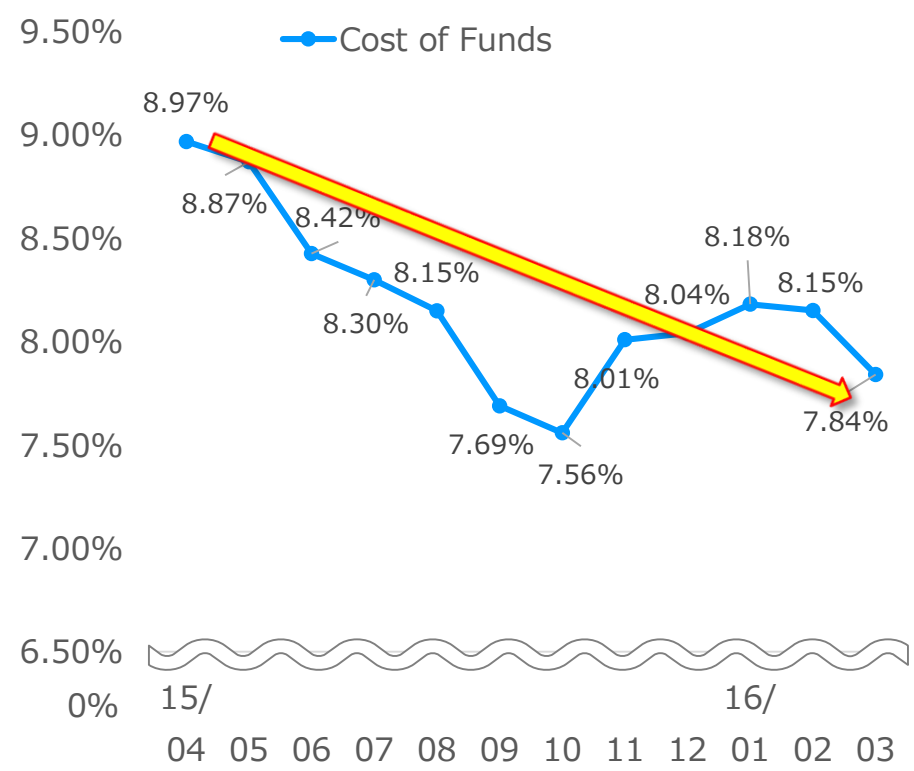
営業資産残高および不良債権比率の推移

単位：億ルピア



- COF(資金調達コスト/Cost of Funds)は低下
- 貸付残高に併せた預金量のコントロールによって預貸率が上昇
(ベースラインコストを削減)

COF(Cost of Funds)および預貸率の推移



- ▶ グループリース社との協業は7月に事業を開始し、順調に契約を獲得
- ▶ Jトラストインドネシア銀行におけるマルチファイナンス[※]が寄与する残高の積み上げを今後加速させる



グループリース社とのビジネスモデル（イメージ）

インドネシアの
13,000を超える
島々を含めた地方に
簡易な販売窓口を
多数設置



チャネリング手法を使用したJトラ
ストインドネシア銀行からの融資



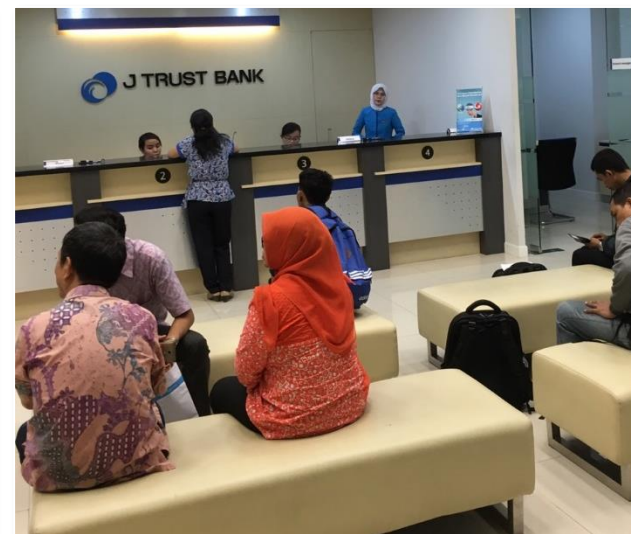
農機具・太陽光パネル・住
宅建築・白物家電などを、
一般消費者に販売



※マルチファイナンス：自動車・バイクローンのエンドユーザーへの仲介ファイナンス会社向け貸出

- ▶ 提携銀行によるルピア建て預金の取り扱い開始により、今後COF低下に寄与
(Jトラストインドネシア銀行の3月末COF：7.84% 本件調達コスト：6.0%~6.5%)
- ▶ 固定費削減・業務効率化に向けた施策は、年内終了を予定
- ▶ 電算システムのスピードアップを図るため、システム部門のマネジメントを追加補強
- ▶ Jトラストより日本保証常務取締役を、執行役員インドネシア事業担当に任命し派遣

Jトラストインドネシア銀行 営業風景



投資事業

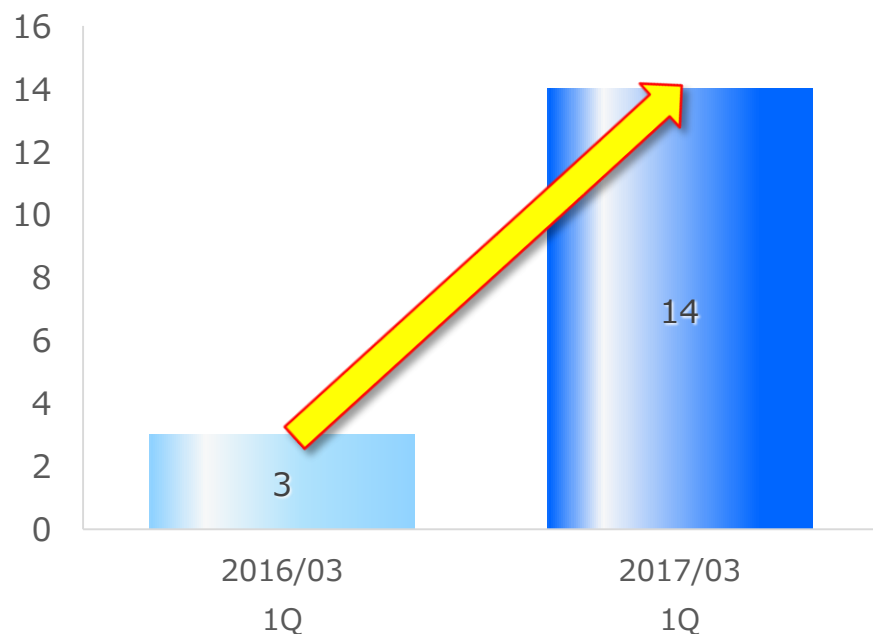
- マヤパダ銀行株式売却等により、14億円の収益を獲得
- GL社[※]転換社債引き受けにより、今期別途8億円の収益を見込む
- GL社の株価は堅調に推移しており、転換社債の評価額の上昇や株式転換による業績への影響が見込まれる

J-GAAP

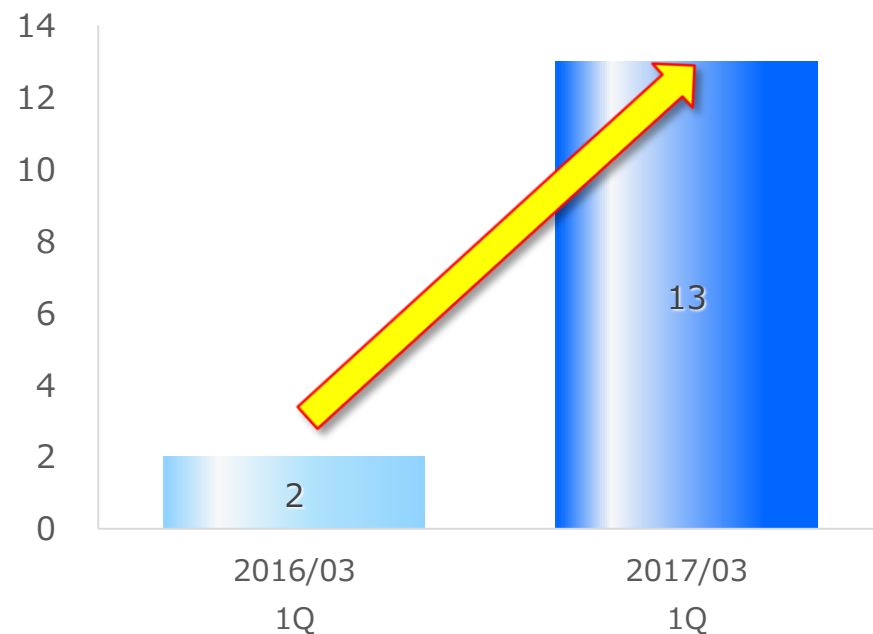
投資事業

単位：億円

営業収益



営業利益



※ GL社：タイ上場のグループリース社

非金融事業

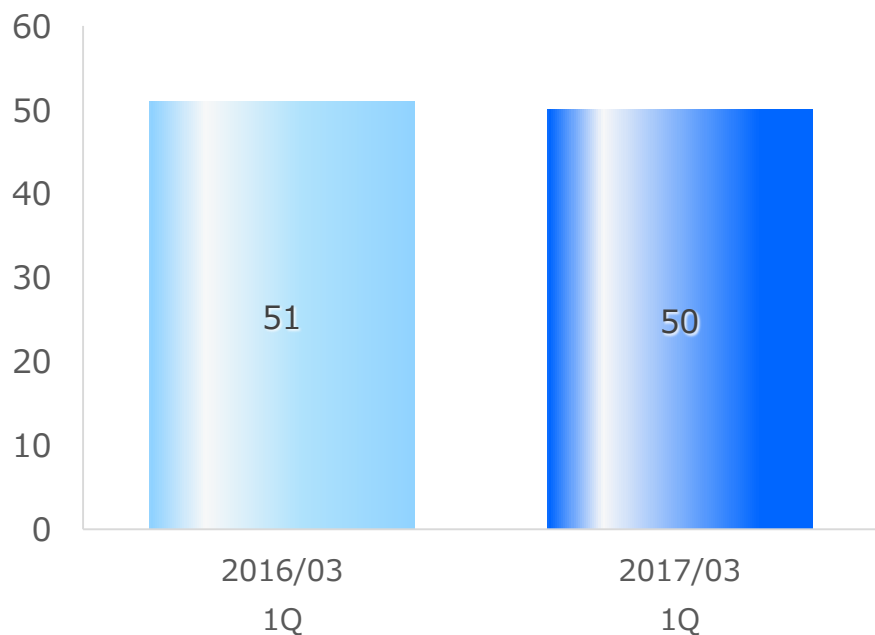
- 営業収益は安定推移
- 総合エンターテインメント事業は、下期に収益増大の計画

J-GAAP

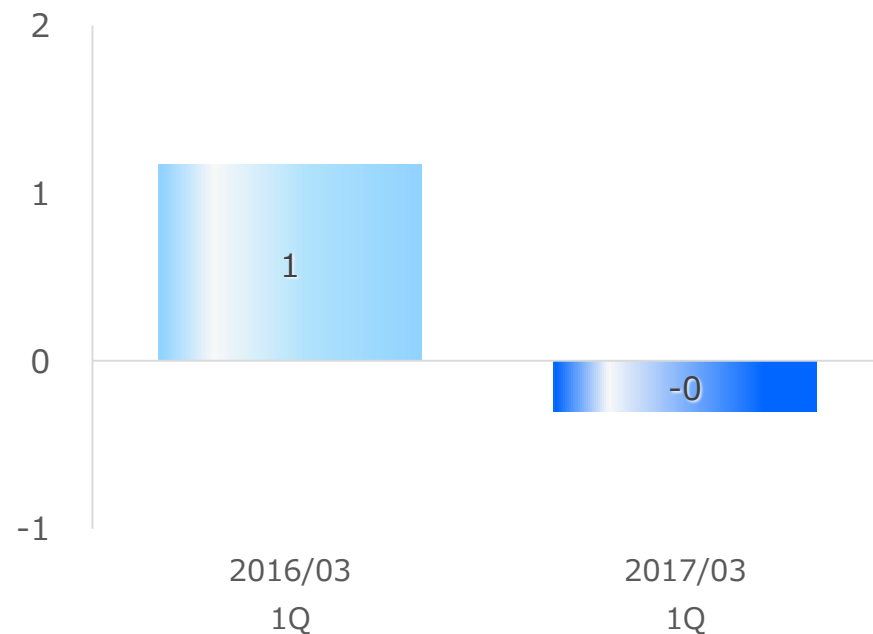
非金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益



- ▶ ビットコイン取引所「J-Bits」を6月にスタート
- ▶ スマートフォン対応のネイティブアプリ^{*}を業界で初めて導入
- ▶ ビットコイントレーダーから「最も取引に適したアプリ」との評価を得る

JBits
Bitcoin is the future.



取引画面



スマホアプリ



コインポータルサイト

^{*}ネイティブアプリ：端末内で全て完結できるアプリケーション

J-Bitsアプリでは、取引、チャート、市況ニュース、ウォレットなど、取引に必要な要素が凝縮されています。

通期計画の進捗状況

J-GAAP

営業収益

	通期計画	1Q	達成率	達成まで
国内金融事業	111億円	25億円	22.5%	86億円
韓国金融事業	408億円	70億円	17.2%	338億円
東南アジア金融事業	206億円	35億円	17.0%	171億円
投資事業	37億円	14億円	37.8%	23億円
非金融事業・その他	220億円	61億円	27.7%	159億円
合計	982億円	205億円	20.9%	777億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンタテインメント事業

※その他：商業施設建築業、システム事業等

J-GAAP

営業利益

	通期計画	1Q	達成率	達成まで
国内金融事業	39億円	11億円	28.2%	28億円
韓国金融事業	51億円	2億円	3.9%	49億円
東南アジア金融事業	3億円	-6億円	-	9億円
投資事業	30億円	13億円	43.3%	17億円
非金融事業 [※]	13億円	-0億円	-	13億円
その他	-23億円	-9億円	-	-
合計	113億円	11億円	9.7%	102億円

※非金融事業における通期計画：

総合エンタテインメント事業=7億円 不動産事業=6億円

その他

- ▶ 機関投資家同様、個人投資家に向けたIRを強化
- ▶ 海外ロードショーの継続的な実施

1. 個人投資家に向けた I R の強化

・個人投資家向け説明会の開催

5月30日・31日（東京/大阪） 計638名参加

9月 8日・ 9日（徳島/愛媛） 開催予定

・日経 I R 投資フェアへの出展

8月26日・27日（東京） 約1万6千人の
個人投資家来場見込み

2. 海外ロードショーの継続実施

・3Qから4Qにかけ、以下の地域にて実施予定

北米/欧州/アジア（シンガポール・香港）



個人投資家向け説明会（大阪）



日経 I R フェア（東京） ※2014年参加時

- 継続的に株主還元を実施
- 資本効率の向上を通じた株主への利益還元を目的に、自社株買いを実施

1. 配当金：1株あたり上期6円 下期6円を予定

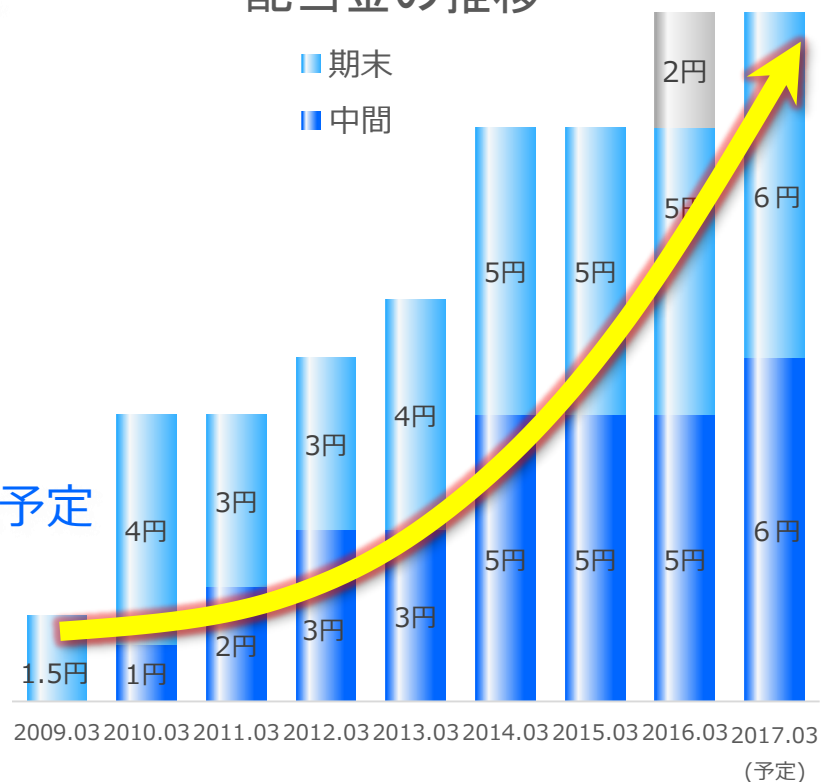
- ・前期比2円増配を予定

※前期は記念配当（2円）を実施

2. 自己株買い：株価・資本効率を勘案し、
自社株買いを実施予定

- ・上限6,000,000株をToSTNeT-3を通じ買取予定
- ・前期6,250,000株の自己株買いを実施

配当金の推移

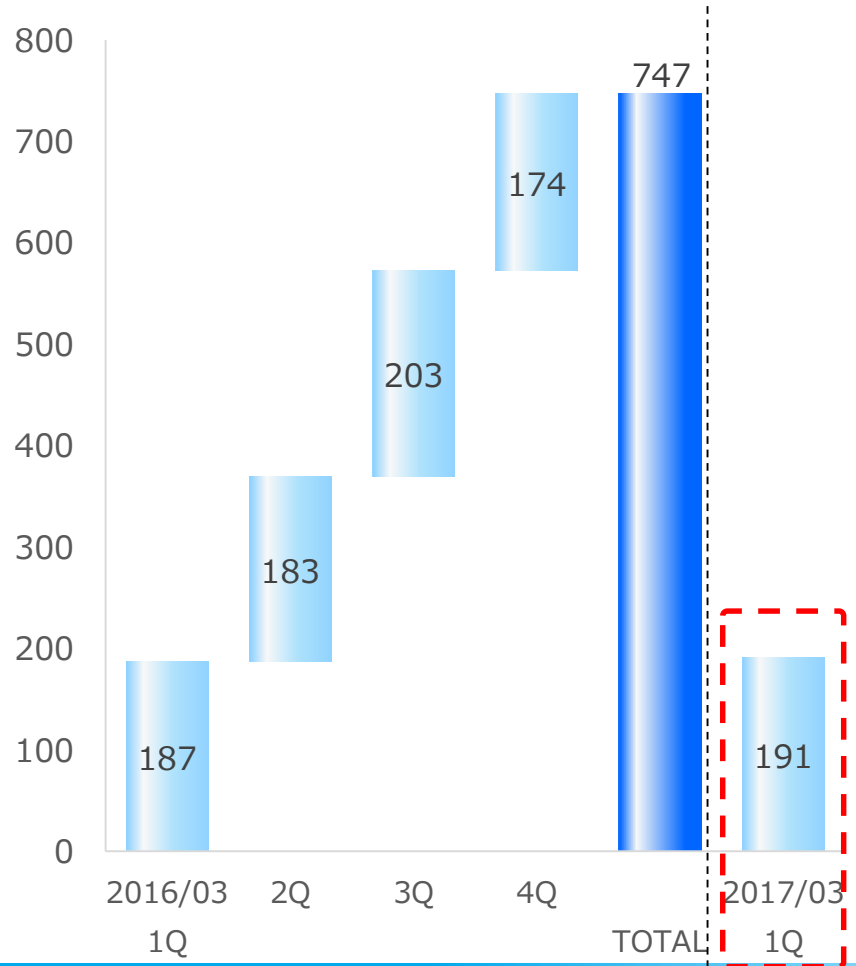


APPENDIX

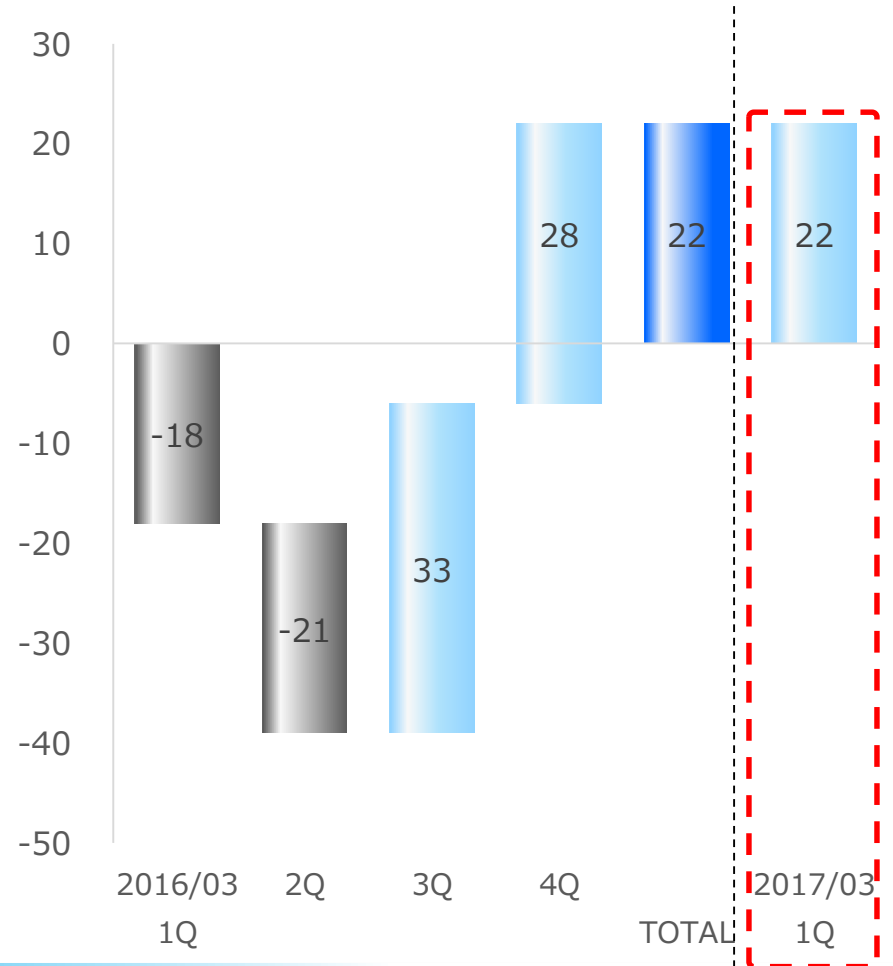
IFRS（未監査）

単位：億円

営業収益



営業利益



IFRS（未監査）

	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
営業収益	187億円	191億円	+4億円
営業利益	-18億円	22億円	+40億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-19億円	1億円	+20億円

第1四半期決算概要/セグメント営業収益（前年同期比）

IFRS（未監査）

	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
国内金融事業	26億円	21億円	-5億円
韓国金融事業	70億円	65億円	-5億円
東南アジア金融事業	29億円	31億円	+2億円
投資事業	-	14億円	+14億円
非金融事業	51億円	50億円	-1億円
その他	11億円	10億円	-1億円
合計	187億円	191億円	+4億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンタテインメント事業

※その他：本社・システム・連結調整等

第1四半期決算概要/セグメント営業利益（前年同期比）

IFRS（未監査）

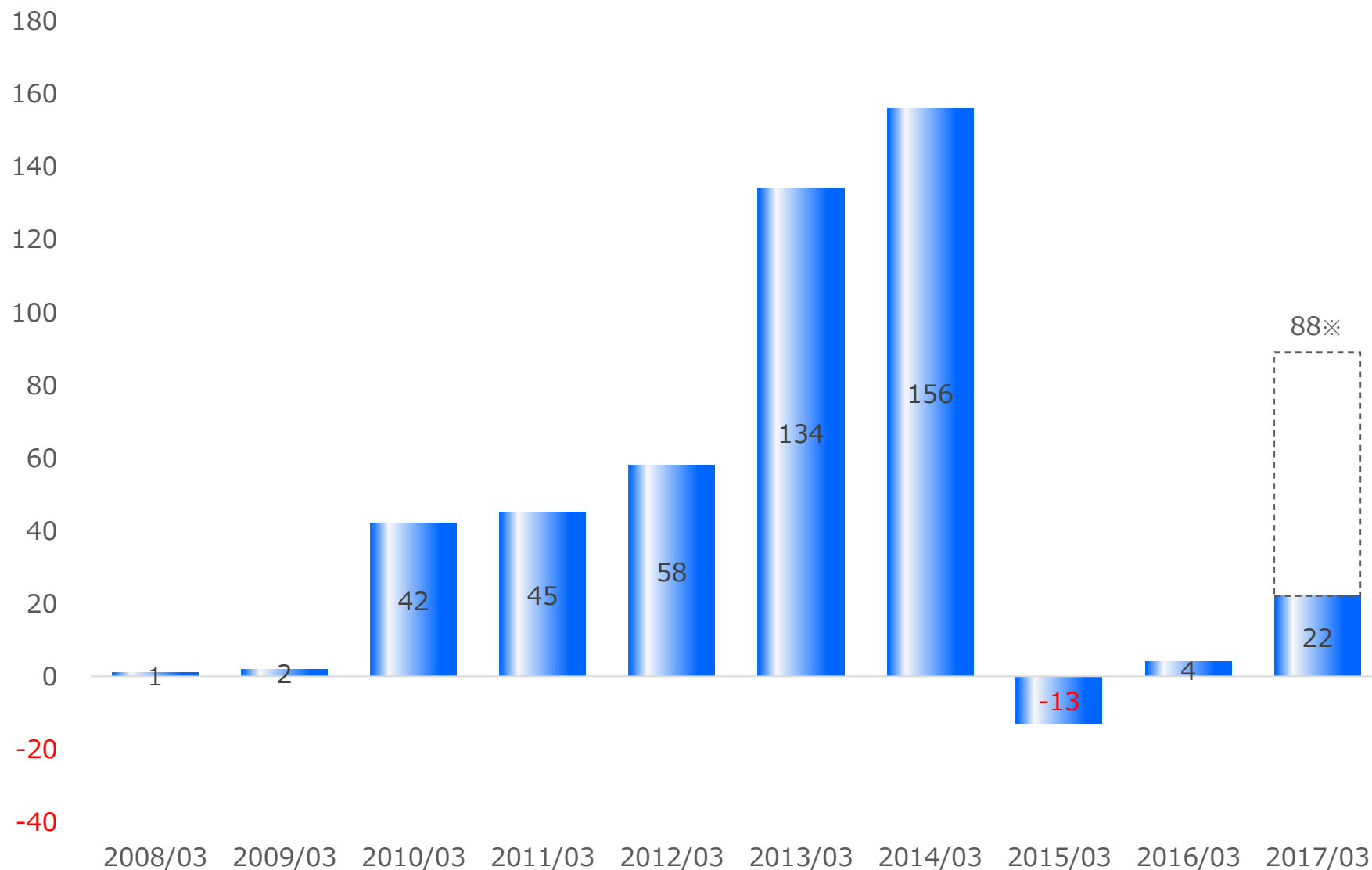
	2016/03 1Q	2017/03 1Q	差異
国内金融事業	11億円	11億円	±0億円
韓国金融事業	-8億円	3億円	+11億円
東南アジア金融事業	-5億円	1億円	+6億円
投資事業	-	13億円	+13億円
非金融事業	1億円	1億円	±0億円
その他	-17億円	-7億円	+10億円
合計	-18億円	22億円	+40億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンタテインメント事業

※その他：本社・システム・連結調整等

調整後 EBITDA

単位：億円



※2017/03 1Qの22億円を単純に4倍した数値です。

